



甲状腺クリーゼの重症度及び予後を予測する因子の解明

2012年1月1日～2024年5月31日まで甲状腺クリーゼの診断で当院に入院された患者さん

研究協力をお願い

当科では「甲状腺クリーゼの重症度及び予後を予測する因子の解明」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2012年1月1日～2024年05月31日までに日本医科大学付属病院 救命救急センター、糖尿病・内分泌代謝内科にて、甲状腺クリーゼのために通常の治療を受けられた患者さんの重症度・予後を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：甲状腺クリーゼの重症度及び予後を予測する因子の解明

研究期間：研究実施許可日～2025年6月30日

研究責任者：日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科 福田いずみ

(2) 研究の意義、目的について

甲状腺クリーゼは集学的な治療を行っても死亡率は10%以上と予後不良です。

本邦では「甲状腺クリーゼ診療ガイドライン 2017」が作成されましたが、未だ発症機序や病態に関して未解明の点が多く残されています。また、甲状腺クリーゼの重症度や予後を予測する因子は確立されていません。本研究を介して甲状腺クリーゼの重症度や予後予測に有用な指標を解明し、予後不良群においてより早期の集学的治療介入につなげることを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2012年1月1日～2024年5月31日までに日本医科大学付属病院救命救急センター、糖尿病・内分泌代謝内科にて、甲状腺クリーゼの治療を受けられた患者さんの臨床情報を収集し、甲状腺クリーゼで用いられている Burch-Wartofsky ポイントスケール (BWPS)、集中治療室における重症度評価の APACHE-II スコア、SOFA スコアを解析し、重症度や予後予測因子についての検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：血液、尿など

情報：年齢、性別、罹病機関、初期治療、バイタルサイン、血液検査、治療内容、転帰等

この研究は、介入研究ではないため通常の診療範囲内で行った治療および検査をカルテ上で情報収集する観察研究であり、患者さんへの侵襲は伴いません。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科 教授 福田いずみ

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：27538

メールアドレス：endometab@nms.ac.jp